

ホシミスジは、1960年頃、私の郷里高知市では例年6月10日前後に、郊外の逢坂峠という小高い山肌草地まで約4km自転車を踏んでやっと出会えるたいへん珍しいチョウでした。1990年代後半だったと思いますが、このホシミスジの幼虫が西畑自宅庭のシモツケにいるのを見つけたときは、一体どこから？と不思議でなりませんでした。すっかりそのことを忘れていた2004年5月、たまたま斎場南側の公園近くを自転車で通りかかった際、まぎれもないホシミスジがひらひらと路面で遊んでいるのに出くわし、あたりを良く見ると、ありました。斎場をとりまく高台となった部分の垣根がすべてホシミスジの食草となるユキヤナギだったのです。このユキヤナギが垣根植物としてどこからか運ばれてきて、そのときホシミスジの卵、幼虫、蛹のいずれかが複数ついていたのでしょう。自転車をゆっくり踏みながら斎場側に気をつけると、他にも何頭か飛んでいるのがみえ、明らかにここで継続発生している様子。場所が場所だけに戸惑いながらも斎場事務所へと立ち入り、観察許可を得て場内のユキヤナギを調べると、若令幼虫も見つかり、目の前で産卵する♀も撮影できました。V字に羽を開いた写真でわかるように、後翅裏付け根あたりにある



星状の黒い斑点がホシミスジという名前の由来です。本州、四国、九州に分布しますが、東北地方では稀となります。

ホシミスジの仲間に幼虫があちこちでマントを形成するクズの葉っぱを食べるコミスジという一回り小さなチョウがいて、どちらかといえばコミスジの方がはるかにポピュラーな存在なのに、近隣ではホシミスジだけが目につきます。普通にみられるはずのコミスジは松波町や西畑地区でなぜかみることがありません。いずれもツンと羽ばたいてはグライダー様にスイーと流れるしぐさで軽やかに滑空し、その飛び方から遠くにいてもミスジチョウの仲間だと分かります。

西畑から松波町へ越えてきて4年経過した2007年夏に初めて玄関前にシモツケの鉢植えをおいて様子を見ていたら、来てくれました。2008年6月19日、大きな♀が1個だけ卵を産んでくれ、産卵後その名前のミスジ（三筋）とホシ模様をしっかりと見てくださいますよ、といわんばかりに隣のゼラニウムの葉っぱ上でゆっくりとV字体勢を交えた開閉を繰り返し見せてくれてからどこかへといなくなりました。その後、卵は無事チョウにまで育ち元気良く飛びたちました。3班裏の花畑に植栽されたユキヤナギにも幼虫が見つかるなど、斎場を発生原点としてじわじわと勢力を広げているのがうれしくなります。

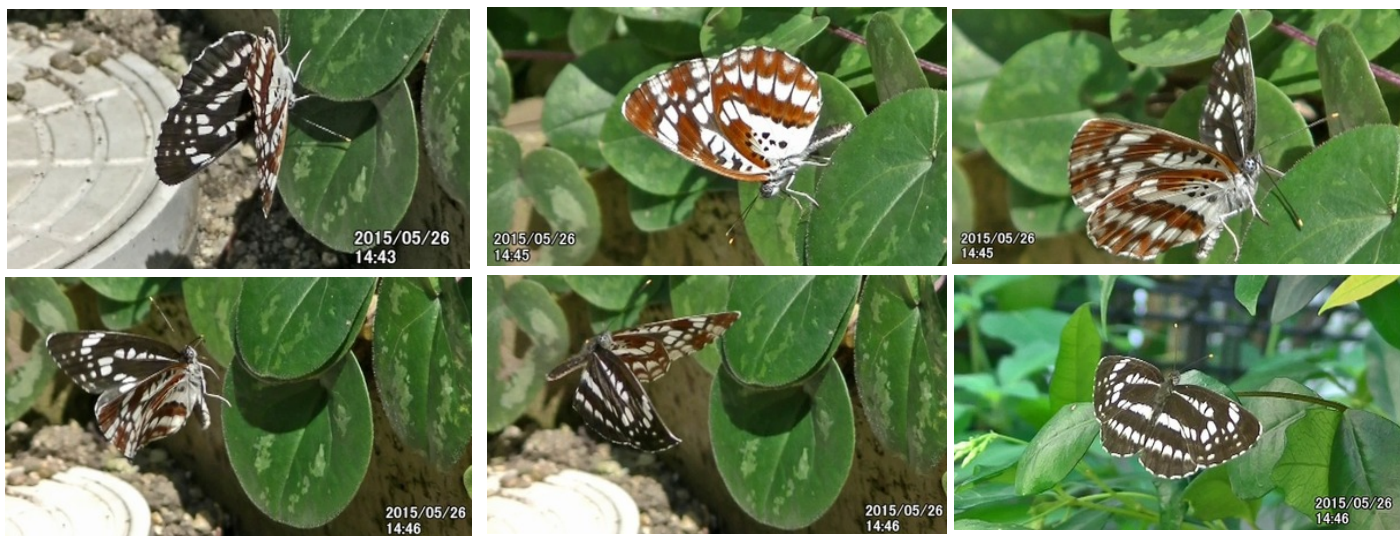
西畑から松波町へ越えてきて4年経過した2007年夏に初めて玄関前にシモツケの鉢植えをおいて様子を見ていたら、来てくれました。2008年6月19日、大きな♀が1個だけ卵を産んでくれ、



産卵後その名前のミスジ（三筋）とホシ模様をしっかりと見てくださいますよ、といわんばかりに隣のゼラニウムの葉っぱ上でゆっくりとV字体勢を交えた開閉を繰り返し見せてくれてからどこかへといなくなりました。その後、卵は無事チョウにまで育ち元気良く飛びたちました。3班裏の花畑に植栽されたユキヤナギにも幼虫が見つかるなど、斎場を発生原点としてじわじわと勢力を広げているのがうれしくなります。

May 26, 2015 昼間の庭にホシミスジ

ここ数日、ホシミスジが庭を訪れてふわりふわりと飛び遊ぶ光景が見られ、カメラをもって庭に出るとなぜか飛び去られるばかりだったが、今日は陽射しが暑いせいかどうか、木陰となった部分を探して長居してくれそうな気配。昔ギフチョウの飼育に利用したヒメカンアオイの葉に口

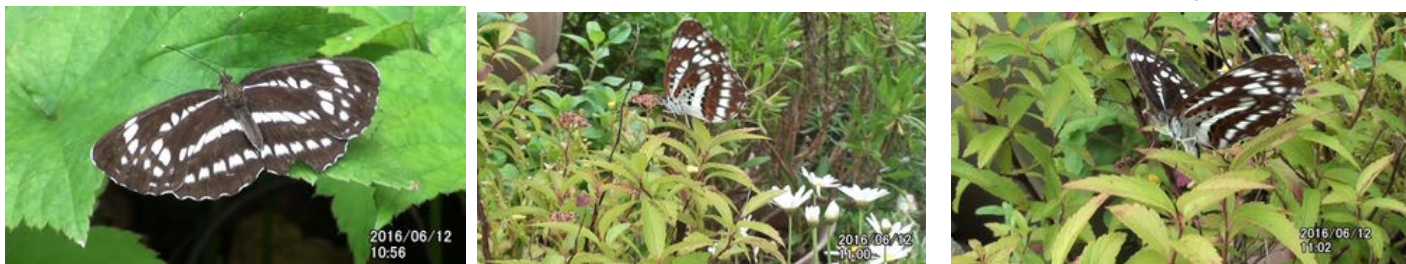


吻を伸ばしたりして固執するようなそぶりを見せるが、葉っぱに湿り気があるわけでもなく、やはり暑すぎるのか、となりのジャスミンの葉陰へと飛び移る。やがてヒラリと飛び立って、とっくに花の終わったボタンやシランの影となっている周辺で飛翔を繰り返す。その様子をビデオカメラで追ってみるが、チョウの姿を大きくとらえるのは難しい。この個体は前翅が丸みを帯びているので早なのかもしれない。玄関先にシモツケを植栽した年には、どこから現れたのか母蝶がすぐにやってきて産卵してくれたのだがそれ以降産卵してくれたことはなく、近くの公園などにくらでもあるユキヤナギが発生源だと思われる。

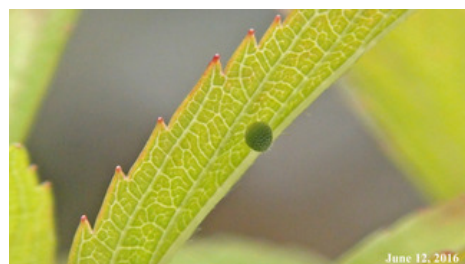


June 12, 2016 ホシミスジが産卵

ホシミスジが家の周りをフワリフワリと楽し気に舞う光景が何度か見られたが、本日、うす曇りの天候のもと、玄関先に植栽してあるシモツケに母チョウが産卵しにやってきた。一度産卵し

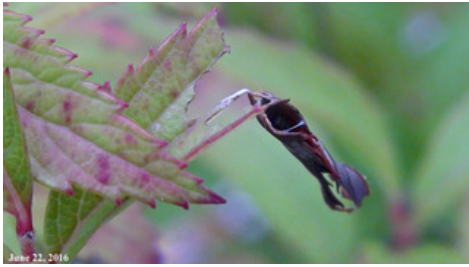


た後、近くで休憩し、やがてカメラを持つ筆者の周りをゆっくりと飛んでからシモツケへととまりいい位置をきめたのか、お尻をぐっとまげて産卵。産み付けた葉っぱを確認後、クローズアップレンズを装着してから可能な限りの接写で記録するとこれまでに気づかなかった、縦筋ではなくミラーボール様の細かい突起群が見て取れる。このシモツケへの産卵はこれで二度目だが、これからの観察が楽しみ。



July 7, 2016 ホシミスジの幼虫

6月12日に母チョウが飛来して鉢植えシモツケに産卵をしてくれたのは、結局2卵だけだったが、本日確認できる幼虫は体長7mmでいどの1個体だけになっている。タツノオトシゴが陸上生活へと変更したかのような姿かたちがユニークな幼虫だが、1週間ほど前までは独特の巣作



りをしてその中に潜んでいたわけで、6月19-20日には確かに幼虫2個体を確認記録できている。鉢植えシモツケには小さなアリの仲間がパトロール散策をしていることを承知していて、アリに幼虫が持っていかれたのか、

あるいは同じく周辺でパトロール飛翔をしているアシナガバチにやられた可能性も否定できない。何とかこの幼虫だけでもチョウにまで育ててほしいものだ。